

グラジオラス新品種候補：  
大型大輪系の白色「ひたち 12号」（仮称）と  
くすみ赤・オレンジ色のミニグラジオラス「ひたち 13号」（仮称）の育成

農業総合センター生物工学研究所

【研究の概要】

グラジオラスは本県の主力切り花品目であり、冠婚葬祭を中心に業務向け用途で利用されています。その中でも基調となる白色の主力品種はすべて外国産品種のため、植物検疫による球根輸入停止のリスクを軽減するため国産品種が求められていました。そこで、業務用途に向く大型大輪系の白色グラジオラス「ひたち 12号」を育成しました。また、社会情勢の変化により花きの家庭需要の増加が見込まれることから、中小輪系でホームユース向けのくすみ赤・オレンジ色ミニグラジオラス「ひたち 13号」を育成しました。



写真1 「ひたち 12号」



写真2 「ひたち 13号」



写真3 草丈の比較

(PSY: プリンセスサマーイエロー)

「ひたち 12号」

○平成23年に「ニューウェーブ」と「南都」を交配して得られた実生から選抜した新品種候補です。

○花色は白色で花弁の先にフリルが入ります(写真1)。

切花長は 125~145 cm程度で、複数の作型で出荷規格 110cm を安定して確保できます(写真3)。

○高温障害である穂やけ症の耐性は「中又はやや強」で、球根増殖性は「常陸はなよめ」と同等以上の良です。

○市場・流通関係者からは花色・花の大きさ・全体のボリュームが高く評価されています。また、取扱希望時期は通年の回答が多く、通年での需要が見込まれます。

「ひたち 13号」

○平成26年に「アンバー」と「トーマス」を交配して得られた実生から選抜した新品種候補です。

○花色はくすみ赤・オレンジ色です(写真2)。

切花長は 80~85 cm程度で一般的なミニ品種よりも安定して短いです(写真3)。

○高温障害である穂やけ症の耐性は「強」で、球根増殖性は「常陸はなよめ」と同程度です。

○市場・流通関係者からは花色・花の大きさ・全体のボリュームが評価されています。また、取扱希望時期は9~10月の回答が多く、花色から秋に需要が見込まれます。

【将来の展望】

○「ひたち 12号」は冠婚葬祭など業務用途向けに年間約 18万球の作付が見込まれます。

○「ひたち 13号」はホームユースや花束等向けに年間約 3万球の作付が見込まれます。